

北原区くるみによる元気な地域づくり事業

取組に至る背景・事業の目的

平成 20 年度にオーナー制度を活用してくるみの苗を植え、以来、委員会をはじめ地域住民により育成されてきた結果、平成 28 年に一部収穫できるまで成長した。

そこで、収穫祭を開催してオーナーと交流するほか、収穫から販売までのビジネス過程において、不足している備品やノウハウを得て、くるみのブランド化、試行販売を行い、コミュニティビジネスとして確立させ、区費負担の軽減を図る。

事業内容

- 収穫したくるみを洗浄する機械の購入、くるみを乾燥させる棚の設置等
- オーナーがくるみを収穫するシステム（ルール）の構築、オーナー表示用のベストの作成、収穫祭の開催
- マーケティングの専門家を交えた住民主体による統一ブランド・地域販売運営組織「きたはらスタイル」を立ち上げ、道の駅で商品名「村ぐるみ」として試行販売



【ブランド化・試行販売した「村ぐるみ」】

事業効果

- 収穫祭は、オーナー 20 名中 8 名、付添 5 名の計 13 名が参加
- くるみの収穫のほか、区民 15 名と交流
- 平成 29 年度は、収穫した 4,000 個のくるみのうち約 1,000 個が販売可能で、来年度以降収穫量も増えることから、継続的に収益が得られる見込みが立った。
- 収穫祭のほか、年間を通して都市のオーナーと交流することで、オーナーに北原区が「第 2 のふるさと」という思いが醸成され今後の移住への足掛かりや関係人口の創出につながった。



【地域運営組織「きたはらスタイル」】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

くるみのオーナーが今後くるみの木の世話や収穫を行うため北原区を訪れる回数を増やすことにより、交流からさらに移住・定住への促進を図りたい。

また、販売可能なくるみの量を増やし道の駅等に出荷することにより、コミュニティビジネスを行い、その収益を活用して区民の負担軽減や地域活性化に役立てていきたい。

【選定のポイント】

平成 20 年度の制度導入以来、くるみの木オーナーは、毎年北原区を「第 2 のふるさと」として訪れ、地域住民との交流を継続している。委員会は地域会社「きたはらスタイル」を立ち上げ、マーケティングの専門家、住民とのワークショップで検討した結果、収穫したくるみを「村ぐるみ」として道の駅で試行販売を行った。これらの取組は、関係人口の創出、コミュニティビジネスモデルとして発展性が期待できる取組である。

団体名	北原区ふるさと暮らし支援委員会 (飯山市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	事務局 0269-65-4049	事業費	756,720円
		支援金額	592,000円